

令和7年度 神戸市市民福祉調査委員会
計画策定・検証会議（第2回） 議事要旨

日時 令和7年10月29日（水）午後16時00分～午前17時30分

場所 神戸市役所1号館8階 中会議室・オンライン

議題 1. 次期“こうべ”の市民福祉総合計画（素案）について

【主な意見】

- ・生きづらさという表現は重いので繰り返さず、一度でいいのでは。
- ・震災で培われた近隣の助け合いや絆は神戸の一つの文化なので、どこかで触れてほしい。
- ・「心地の良い居場所」という記載に加えて「自分が認められる」という表現があると良い。
- ・地域の範囲が神戸市と答える人が倍くらいになっているという話があるが、福祉の計画は校区くらいの範囲の関係性が多い。計画の中でも、どういうところを地域としてイメージとするのか、検討できるといいと思う。
- ・「施策」ではなく「取り組み」という書き方にした方がいいのではないか。
- ・量的目標については設定が難しいものもあるが、可能な限り数値を設定したほうがいいと思う。分野別計画で数値目標が設定されることであれば、その数値を評価に使用してもよい。
- ・質的評価、量的評価はともに行うべき。
- ・取り組みを主体に分けて記載するのは良いと思うが、方向性との紐づけも残しておいた方がいい。評価の際に、各方向性がどこまで進んでいるかを確認する指標になる。
- ・新しくできた取り組みについては、都度指標を考えるしかない。ただ、指標を取るためにコストがかかるものはやめたほうがいい。
- ・多くの事業のうちから、いくつか重点的なものをピックアップして評価するという考え方もある。毎年重点目標みたいなのを挙げて評価してはどうか。
- ・地域活動をしている立場としては、評価を見て達成感を感じることもあるし、活動の参考にできるという視点もある。
- ・福祉という言葉を、特定の対象者ではなく「みんなのもの」と広げているのがとても良い。
- ・若者の意見が取り込まれるのは良い取り組みだと思う。
- ・広報ツールのサイズ感について、大学生の意見を参考にしたというのはいい考えだと思う。少しでも手に取ってもらえるような工夫ができればよい。
- ・障がい者のしごとサポートの話だけでなく、シニアの仕事の話も出せるとよい。
- ・国際性が見えるよう、国際的な規約の記載を追加したい。
- ・計画を推進する主体に当事者団体を入れてもいいのではないか。